

- 8 令和2年度 決算のお知らせ
- 9 3年度 太田市の財政状況(上半期)
- 2 成年年齢引き下げによる
消費者トラブルに注意
- 6 世界の子どもの本展



火災を防ぐ、
火の用心!

4ページへ続く

こんにちは
市長です

昨日はとてつもなく暑かったのに今日は上着が必要なほど、やっと秋になった感がある。予定がびっしりの

日があれば余裕たっぷりの日もある。今日は余裕の日、いつもの通り役所の中を歩き回る。若い職員と旬な話題で対話するのが楽しい。医療年金課で足が止まった。来庁者が大声で職員にかみついていて。職員の説明に耳を貸さない。「たまにあるんです」若い女性職員はつぶやく。コロナで職を失う人もいる。不満が重なる。職員の一言で爆発する。そんな場面だったのかもしれない▼机の上の1枚紙に「令和3年度の75歳到達者」後期高齢者保険証の発送数があった。昨年は5月から半年間で1061人だったのが今年は1395人に急増。いよいよ団塊の世代が後期高齢に参加し始めたのである。後期高齢者(約2万8千人)の1人当たりの医療費は平均83万円、全体では228億円かかっている。「そんなにも!!」恥ずかしながら私も知らなかった。後期高齢者が平均83万円を負担しているならばプラスマイナスゼロで問題はない。ところが本人の窓口負担は1割または3割、ほとんどが1割負担である。残りは誰が払うか、後期高齢者はそれを知るべきだと思う。保険料で1割、働いている現役世代の人たちが4割、そして国・県・市町村の公費で5割を負担する。9割は『みんなの支援』で成り立っている▼『みんなの支援』に国保から、がある。国保は0歳児を含む皆さんの孫たちまでもが「均等割り」で課税されている。つまり0歳児にまで医療費を負担してもらっているということ、おかしな話ではないか? 国に改善を求めています。とにかく「高齢者は元気であることが最大の社会貢献」そう思っています。(10/12記)

